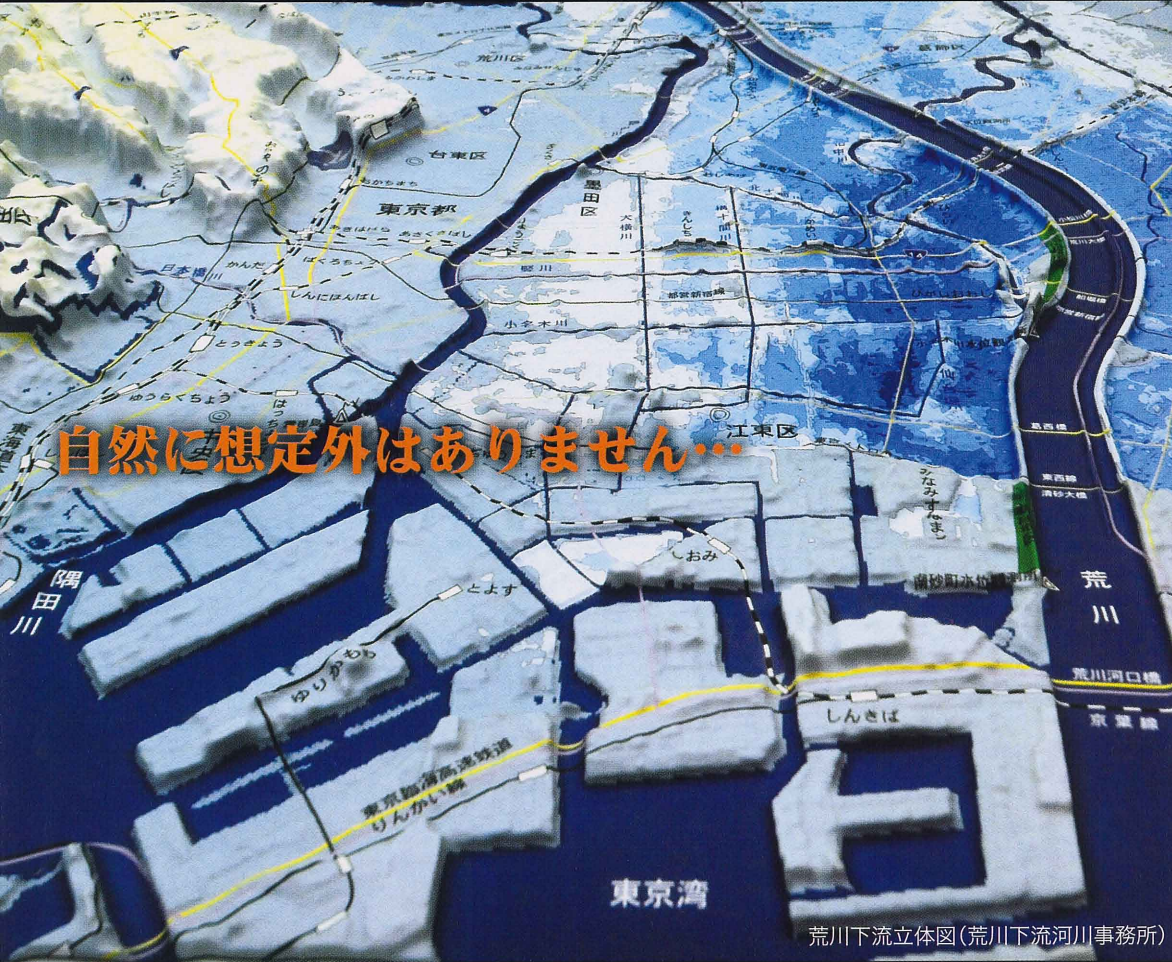


東京低地災害史

地震、雷、火事?…教訓!



自然に想定外はありません…

二〇一一年三月十一日に発生した東日本大震災は、自然と人間の関わり方を根底からくつがえす出来事でした。一年半余を経過した今も、被災地の復興は進まず、多くの方々が自宅に帰れない、以前の仕事に就くことができない等、苦しい状態が続いています。特に、福島第一原発は、廃炉まで何十年もの時間が必要とされ、周辺の帰宅困難及び居住制限区域の方々が、以前の生活を取り戻すには、多くの困難が予測されます。

この展示では十七世紀以降、東京低地が立地する関東平野における歴史災害の検証を試みました。多くの災害は避けては通れないものですが、先人は自然と共生しながらも、発生する諸災害に立ち向かい復興をとげてきました。残された史料から災害の教訓を少しでも未来に継承し、改めて自然と向かい合う契機になれば幸いです。

荒川下流立体図(荒川下流河川事務所)



2012.8.31 福島県いわき市久之浜



2011.3.26 葛飾区水元公園



写真提供 光と風キャンペーン実行委員会

5時19分50秒

2011.3.11 千葉県旭市飯岡

併
催
企
画

■ 記念講演会 10月20日(土) 14～16時

都司嘉宣氏 (元東京大学地震研究所准教授)
「東日本大震災の津波の教訓と安政江戸地震による詳細震度分布」

■ 歴史教養講座 11月18日(日) 14～16時

井上公夫氏 (砂防フロンティア整備推進機構技術長)
「関東山地の大規模土砂災害と下町東京」

● 津波被害を語る会 11月24日(土) いいおか津波 語りつくす会
午前の部 11:00～11:50 午後の部 15:00～15:50

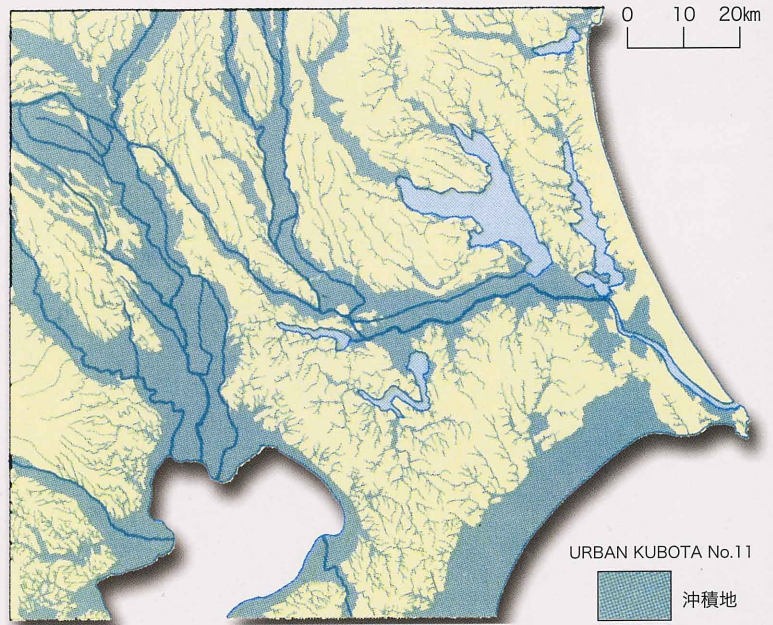
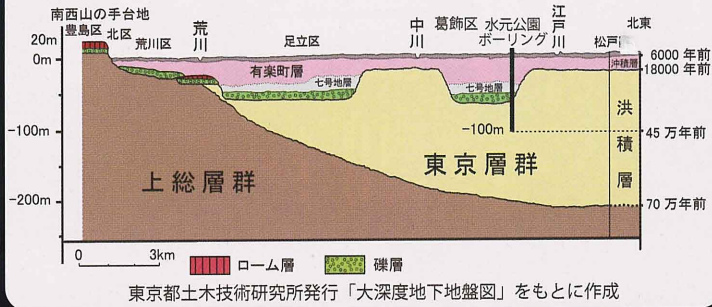


葛飾区郷土と天文の博物館

〒125-0063 東京都葛飾区白鳥3-25-1
TEL 03(3838)1101 <http://www.museum.city.katsushika.lg.jp/>

1 東京低地の自然環境

私たちの生活の舞台である東京低地は、約6000年前の縄文海進期から始まります。現在の茨城県古河付近と埼玉県川越付近まで入り込んだ海は、その後利根川・荒川など河川の堆積作用で陸化が進み、東京低地が形成されました。土地の履歴は災害と大きくかかわっています。



2 関東平野災害史

●地震・津波

東京低地では、プレート境界型地震として、1703(元禄16)年の地震、1923(大正12)年の関東大震災があり、広範な津波被害が発生しました。現在懸念されている直下型地震には、1855(安政2)年の江戸地震、1894(明治27)年の東京地震があります。

●火山

関東平野を取り巻く、富士山や浅間山など多くの火山群の噴火活動は、東京低地に影響を及ぼしました。1707(宝永4)年の富士山噴火では広範な火山灰が降り、宝永火口が形成されました。1783(天明3)年の浅間山噴火では、天明泥流によって吾妻川から利根川、さらに江戸川を通して流された人馬を、柴又村の人々が帝釈天の墓地に葬り、供養碑を建てています。



2004.9 浅間山噴火 利根川砂防事務所

●水害と高潮

利根川・荒川の影響を受けた東京低地では、江戸時代以降も幾多の水害に見舞われています。1910(明治43)年の水害は首都東京に大きな被害をもたらし、荒川放水路が建設されました。1947(昭和22)年9月のカスリーン台風は、葛飾区全域が水没する大水害でした。東京湾沿岸では台風時の高潮被害も多く記録されています。



1947.9.21 GHQ撮影 堀切

3 東日本大震災の教訓

観測史上4番目という規模の震災では、関東地方でも大きな被害がありました。この震災を真摯に受け止め、災害からの教訓を学ぶことが今求められています。

2012.6.20 福島県南相馬市 切れた防波堤と浸水した耕地



この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。

2012.8.31 福島県双葉郡楢葉町



1947.9.22 浸水状況

GHQ撮影